

# 上部消化管内視鏡検査の説明・同意書

患者氏名 \_\_\_\_\_ 様

令和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 以下の通り説明いたしました。

説明日 \_\_\_\_\_ 令和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

説明医師 \_\_\_\_\_

同席者 \_\_\_\_\_

検査日 \_\_\_\_\_ 令和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分

## 検査目的

食道・胃・十二指腸の粘膜を観察し、胃炎などの炎症や、潰瘍、胃がんなどの腫瘍の診断を行います。X線（レントゲン）検査では発見しにくい小さな病変をとらえることが出来ます。生検といって、病変の組織を鉗子で取って顕微鏡で検査することにより、がんなどがないかどうかを調べます。さらに胃の中の出血を止めたり、ポリープとよばれる腫瘍を取り除いたりする治療を行うこともできます。

## 検査方法

検査は外来で行いますが、ポリープを取り除いたりするときは入院して行うこともあります。検査前にカメラの通過するのを楽にするためにノドの麻酔をゼリー状の麻酔剤を使用して行います。検査、処置の内容で医師が必要と判断した場合や患者様からの希望により精神安定剤を静脈内注射する場合があります。（事前にご相談いただき、検査当日はご自身が運転してお車での来院はお控えください）その場合検査終了後1時間は病院で待機していただくことと24時間は精密な作業をお控えいただく様お願いいたします。

検査は検査台に左側を下にして横向きに寝ていただき、内視鏡をノドから胃内に挿入します。胃に入った内視鏡から空気を入れて胃をふくらませ、胃の中を直接観察します。胃だけでなく同時に食道、十二指腸も観察できます。検査にかかる時間は15分位ですが、処置の内容や患者様の状況によって前後いたします。

## 検査の危険性

- ①危険性としては、ごくまれに麻酔薬に対する過敏反応を示す方がいます。
- ②生検を行うときには出血しますが、ほとんどの場合すぐ止まるため問題はありません。
- ③内視鏡による粘膜障害や裂傷、穿孔
- ④検査前にあった疾患の悪化など
- ⑤検査後にノドの違和感、おなかの張りを感じる場合があります。

※診療内容の選択については、患者様本人に最終的な自己決定権があり、上記の診療内容を拒否することもできます。セカンドオピニオンを求める権利も保障されています。

私は上部消化管内視鏡検査の必要性と合併症の説明を受け、その内容について

- 十分理解し、納得して検査・治療を受けることに同意します  
 十分理解しましたが、検査・治療を受けることに同意しません

記載日 \_\_\_\_\_ 令和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

患者名 \_\_\_\_\_

同席者 \_\_\_\_\_ 続柄 ( \_\_\_\_\_ )